

五、此研究ヲ基礎トスレバ此現象ノ單ナル機械的説明ハ否定ス可ク、然シテ高氣壓ハ有機體ニ作用シ呼吸ノ變化ヲモ起ス刺戟トシテ作用スルモノト云ハザル可カラズ。

六、氣室ノ治療的效果ハ一部ハコノ基礎ニ立チテ其説明ヲ見出シ得ルナリ。

(黑丸抄)

45、獨逸 Davos-Wolfgang. 療養所及獨逸療

養所

Oskar Fischinger.

著者ハ「獨逸ノ勞働保險法、結核撲滅施設等ハ瑞西ニ比較シ不備ナリ」ト論セル E. Peters. ノ「過去及ビ將來ニ於ケル結核撲滅ニ對スル肺療養所ノ意義」ナル論文ヲ批判シ、獨逸ノ療養所ノ狀態ニ就キ詳述シ、E. Peters. ノ批評ハ正シカラズ且根柢ナキモノナリト否認セリ。
(黑丸抄)

會報並雜報

○前會長佐多博士ノ歸朝

前會長佐多愛彦博士ハ本年五月日獨學術交換教授トシテ柏林大學其他ヨリ招待ニ應ジ、夫人同伴ニシテ、渡歐シ、米國ヲモ訪問セラレ、各地ニ於テ本邦醫學其他ノ文化ヲ廣ク紹介シ、同時ニ彼地ニ於ケル醫學研究、醫育機關ノ狀況、社會組織及政治關係等ヲモ視察シ、到ル處朝野ノ歡迎ヲ受ケ、彼我ノ親交ニモ多大ノ貢獻ヲナシ去十二月八日無事歸朝セラレタルガ、九日ノ夜東京會館ニ於ケル日進醫學社主催歡迎會ニハ些ノ疲勞ヲモ見セズ多方面ニ互ル興味多キ視察談ヲ試ミ、歐米ニ於ケル結核ノ研究ニ關シテハ殊ニ詳細ニ互リ吾人結核病學會々員ニ取リ有益ナリキ、吾人ハ昭和三年ノ「結核」紙上興味津津タル博士ノ「歐米結核研究評論」ノ掲載セラル、コトヲ期待スルモノナリ。

○前幹事佐藤正博士歸朝

豫テ國際聯盟極東情報局長トシテシンガポールニ駐在セラレ佐藤正博士ハ此程無事任務ヲ果サレテ歸朝、内務省技師トシテ衛生局豫防課ニ勤務セラルルコト、ナリ主トシテ結核方面ニ力ヲ注ガル、答ナレバ本會ノ爲メニ一層盡力セラル、モノト信セラル。

◎正誤

○結核第五卷第十一號岡治道述「咯血ノ病理」正誤

頁	行	誤	正
一二三二	二	源發竈 [△]	原發竈 [○]
一二三三	六	後述ふる如く [△]	後に述ふる如く [○]
一二三四	一	小葉性、小葉性 ^{△△}	小葉性 [○]
同	十一	其強固 [△]	甚強固 [○]
同	同	尙洞面 ^{△△}	空洞面 [○]
同	十九	考へらばならぬ [△]	考へられねばならぬ [○]
一二三五	七	Torés [△]	Jorés [○]
一二三六	七及十八	咯血された [△]	咯出された [○]
同	九	Blumentfeld	Blumentfeld

○結核第五卷第十一號鈴木氏論文正誤

頁	行	誤	正
一二四三	一五	咯血の肺結核診断	肺結核の咯血診断
一二四五	三	は然らむ	非らず
一二四七	六	豫後不良の場合が良 [△]	豫後不良の場合が多い [○]

○結核第五卷第十一號大島論文正誤

頁	行	誤	正
一一八〇	頁一行目	Bery ¹	Bery ¹
一一八一	頁十五行目	含水炭検	含水炭素
一一九〇	頁十五行目	(46) Körper	(94) Körper
同	同	Körper	Körper
二頁二十行目		Orange	Orange